

消化管内視鏡検診

Screening Endoscopy

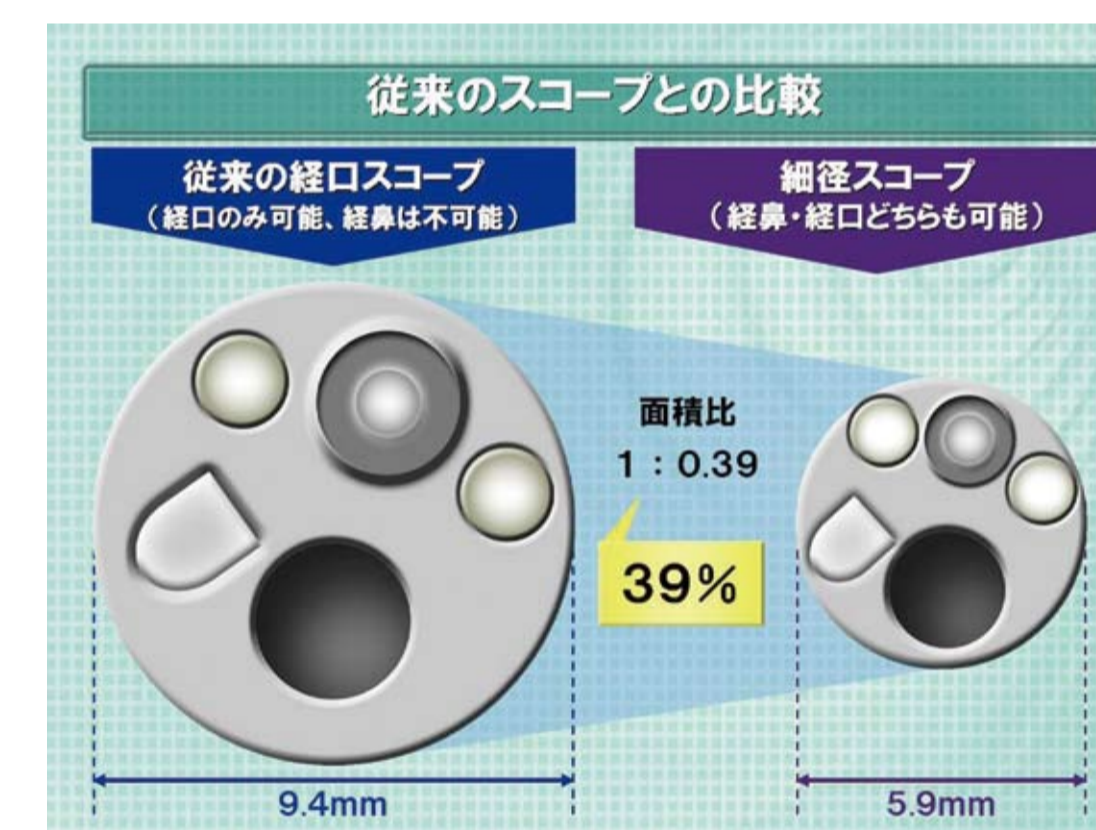
がん予防・検診研究センターの消化管内視鏡検診による発見率は胃がん：1.0%、食道がん：0.2%、大腸がん：1.0%で、これは全国平均を大きく上回る高い値です。最先端の内視鏡機器と高い診断能を有する熟練内視鏡医がそろっていることによるものです。当施設では様々な最先端の内視鏡機器を研究開発し、それらを臨床現場に応用しています。

高い精度の内視鏡検診、最新の内視鏡機器の開発、研究

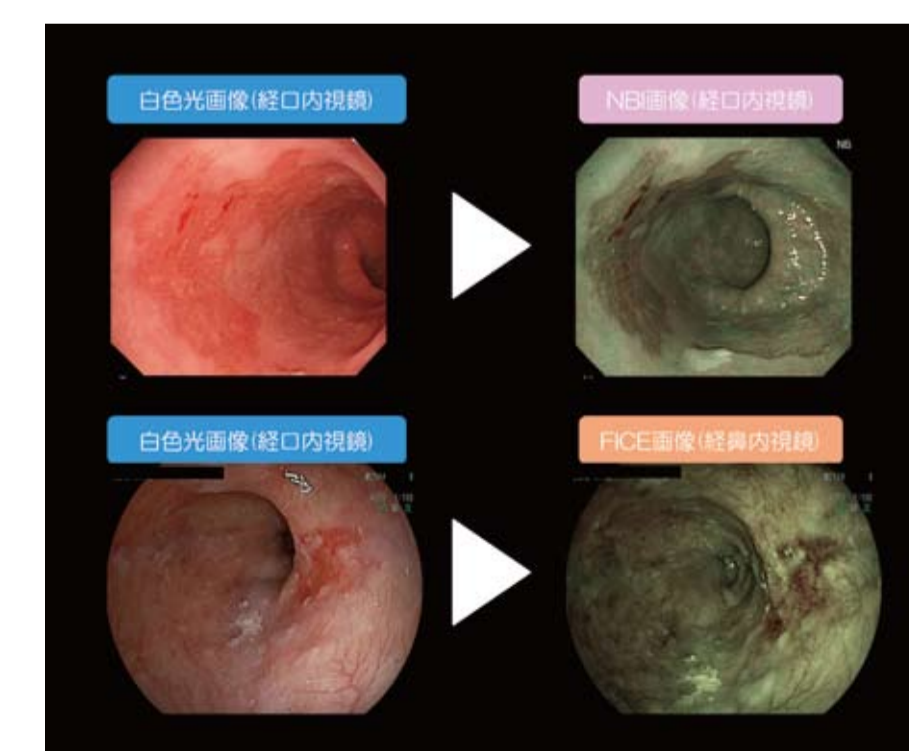
経鼻内視鏡（直径 5.9mm）は従来の内視鏡（直径約 10mm）より細く作られており、鼻から挿入することができます。鼻から挿入すると、「おえっ」「げー」となる場所（舌根部といいます）に触れずに胃まで到達できます。楽に安心して受けられる検診として、経鼻内視鏡は大きな支持を集めています。

また、当施設は構造強調画像（IEE: Image-Enhanced Endoscopy, NBI や FICE など）も行っています。これにより腫瘍血管が強調され、見えにくい腫瘍も見つかりやすくなり、咽頭がん、食道がんなどの発見が以前よりも容易になりました。

さらに、当施設では近い将来本邦にも導入されると予想されている大腸カプセル内視鏡の研究にいち早く取り組んでいます。大腸カプセル内視鏡は大きさが 31mmx11mm で、カプセルの両端にレンズが備わっており 35 フレーム / 秒で撮影されます。将来はひとつのカプセル内視鏡で全消化管の観察も夢ではないでしょう。当施設は本邦の大腸カプセル内視鏡の統括役となり、よりよいカプセルになるよう改良を重ねているところです。



ここまで細くなった経鼻内視鏡



特殊な光（構造強調画像、NBIやFICE）でがんの発見がより容易に！



飲むだけで消化管が観察できるカプセル内視鏡